

学校法人 北里研究所 北里大学東洋医学総合研究所だより



平成 28 年 7 月号 (第 40 巻第 3 号・通巻第 163 号)



右絵は岩崎灌園『本草図譜』に描かれたチモ

知母 (チモ)

ユリ科ハマスゲは中国東北部・華北に分布。日本には江戸時代に渡来し、栽培される。草丈 50〜100cm の多年草で、夏に淡紫色の穂状の花を付ける。その名は葉がスゲに似てスゲよ

り美しい花が咲くことに由来。漢方では根茎を「知母」と称し、発熱による脱水、咳嗽、便秘、排尿障害などに用いる。白虎湯、辛夷清肺湯などに配合される。
(坂田 幸治)

特別寄稿 薬用植物の国内栽培化に向けた東京生薬協会の取り組み

公益社団法人 東京生薬協会
専務理事 末次 大作

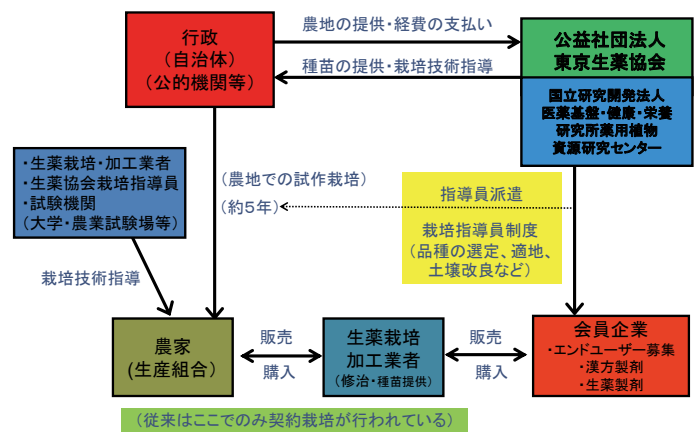
当協会は、保健衛生上の重要な役割を持つ医薬資源である生薬の品質向上と生産強化、安定的な流通確保を図っていく必要があるとの認識から、昭和 28 年に設立されました。平成 24 年度から公益法人としての認可を契機として、公益性の高い薬用植物の国内栽培に関する事業に本格的に取り組んでいます。また平成 26 年度からは、北里大学東洋医学総合研究所様にも当協会にご加入いただき、薬用植物国内栽培事業検討委員会のメンバーとしてご活動いただいています。

下の特表は、当協会における薬用植物国内栽培の仕組みを表現したものです。遊休放棄地の活用や農業の活性化等、行政として取り組む課題の対応の一つ

このように自治体からの要請を受け、当協会は、栽培地の確認(自生植物の調査や放射線の影響、残留農薬や重金属等の調査)をし、自治体と協定を結び、医薬基盤薬用植物研究センターと共同で種苗の提供と栽培の技術指導を行っていきま

この間に栽培の技術の習得や種苗の増産を図っていただきます。
この方式により、従来の生産農家等と生薬加工業者等との契約栽培方式による農家の方の負担軽減を図るとともに、企業の方々には、安定的に良質な生薬を提供し、使用していただく仕組みです。
現在、このような仕組みに基づき協定を締結してい

当協会における薬用植物国内栽培事業のしくみ



る自治体は、7か所(秋田県八峰町、美郷町、新潟県新発田市、新潟市、福井県高浜町、岐阜県岐阜市、大分県杵築市)です。最終的には10か所程度の自治体と協定を結び、薬用植物の国内栽培を広げていきたいと考えています。

この度当協会は、北里大学東洋医学総合研究所様が行っている文部科学省センターオプイノベーション(COI)研究事業において、参画機関としてご協力させていただくことになりました。具体的には例えば、当協会が協定を結んでいる自治体で生産された生薬サンプルを北里大学で品質評価していただき、その結果をより高品質な生薬栽培に生かすことが出来れば、国産生薬栽培振興に向けて大きな力になると期待しているところです。

今後とも、当協会の薬用植物国内栽培化に向けた取り組みへのご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

脈波センサー測定への ご協力をお願い



漢方診療部 川鍋伊晃

今年の4月より当センター漢方外来におきまして、初診の患者様を対象に、手首での脈波を測定する臨床研究を開始いたしましたので、簡単にその内容をご紹介します。

今年4月より当センター漢方外来におきまして、初診の患者様を対象に、手首での脈波を測定する臨床研究を開始いたしましたので、簡単にその内容をご紹介します。

漢方診療および鍼灸診療では、個人の心や身体の状態を推測し、体質に合った処方や治療を選択する上で、脈の性状を評価することがとても重要な要素になります。当センター漢方外来での通常診療におきましても、身体診察の一環として、舌やお腹と合わせて毎回拝見させていただいております。

通常私たちが脈の性状を診るときは、人差し指・中指・薬指の3本を手首の近くの橈骨動脈に押し当て、脈の強さや緊張度、深

さ、速さ、太さなどを相対的に評価しています。これらの情報から、虚実などの体質や病気の進行度、精神状態などを推測しております。

しかし、その評価に際しては、診療者の経験や暗黙知を拠り所としており、誰もが所見を共有できるような、一定の基準となる測定方法がなく、評価者の間で結果にバラつきを生じ、伝統医学の進展を図る上で支障となっておりました。

そこで、正確な脈状の評価を目的として、測定条件が整った定量化の手法を確立するため、3年ほど前から富士通研究所と共同で触覚センサーの開発を進めてまいりました。この度、診療支援に繋がる信頼性の高いセンサーシステム開発を目的に、初診の患者様を対象とした臨床研究を開始させていただきます。

測定で得られた橈骨動脈波のデータと外来医の診断との相関を分析することで、脈波の解析アルゴリズムを開発する取り組みを今後進めてまいります。

信頼性の高いアルゴリズムの開発を目指す上で、様々な患者様にご協力いただいてデータを集積していくことが不可欠になりますので、なるべく多くの皆様にご協力いただければと考えております。

現在は測定のための、結果に関するレポート等をお渡しすることはできませんが、将来的には皆様へ結果をフィードバックできるよう開発を進めてまいります。

この研究への参加はあくまで自由意思に基づいておりますので、研究の趣旨に同意いただける方のみ、初診時の診察前に検査室で測定をお願いしております。測定は数分で終了し、痛み

など侵襲を伴うものではないと思います。尚、研究への参加を見合わせたり、後日、研究協力の意思を撤回されても、診療への影響は全くありませんのでご安心下さい。

今後のさらなる漢方医学の普及や国際化を視野に、研究成果を継続的に国内外に発信し、基礎と臨床、伝統医学と現代医学の懸け橋となるような取り組みを進めていきたいと考えております。



診察前アンケートについて

EBMセンター室長 若杉 安希乃



「すべての人は、自分の中に医者を持っている」20世紀のヒューマニストとして知られ、ノーベル平和賞受賞したドイツの哲学者・医者・神学者、アルベルト・シュバイツァー（1875～1965）の名言です。患者様の体調は、患者様ご自身が一番、理解されていると述べたものです。漢方外来では、担当医が、舌診・脈診・腹診などを代表とする漢方医学独特の診察を行うことにより、患者様に効果があると思われる漢方薬をたくさんの種類の中から選択します。再診時には、選択した治療方針、つまり見立てが正しかったかどうかを判断しています。効果があると思われれば同じ処方継続したり、服用量を調節したりします。効果がないと判断し

た場合には、治療方針を再考し変更します。つまり、患者様が感じられている体調の変化や漢方薬に対する満足度は、治療方針の決定における重要な糸口の一つになります。

そこで、患者様が満足度を先生方に容易にお伝えできると、2問のアンケートで構成されるツールを中待合に設置しました。一つ目のアンケートは、「心身全体の状態（体調、気持ちを含めて）」についての質問で、「前回受診時の心身全体のつらさを10としたとき、現在（最近1週間の平均）のつらさはどの程度ですか？およその数字で示してください」というものです。もう一つは、「漢方薬の効果」について、アからオのいずれかに○印を付けるものです。

今年の4月から開始したツールですが、スタート早々、多くの患者様よりご意見・ご指摘をいただきました。その代表的なものとして回答を以下に示します。

☆「数字で表すのが難しい」↓このご指摘は、多く寄せられていますので、現在、質問内容および回答方法の変更を検討中です。アンケートは、何となくの印象で記載していただいていたので結構です。アンケートの内容にかかわらず、今まで同様、担当医は、診察室で患者様のお話を詳しく伺います。また、難しいようでしたら、無理に記載されなくても構いません。先生方は、アンケートだけでなく、患者様の声の調子、肌の艶、眼力等、ありとあらゆる情報と合わせて治療方針を決定していますのでご安心ください。

☆「部分的な改善を全身状態にどのように反映させればいいのか」↓身体の一部が改善すると、うれしい気持ちになります。また、

その逆もあります。「心身一如」という言葉通り、心と身体は、お互いに強く影響し合っているのです。全体でどうかを表現することが難しいようであれば、空欄で構いません。

☆「主治医に見られるので、書きにくい」↓治療方針は、患者様と医師が一緒に決めて行くものですので、ぜひ、率直なご意見をご記入ください。それが、

お互いにとって最善の策になります。

☆「先生に直接、自分の言葉で表現したい」↓もちろん、今まで通り、先生にお話しください。アンケートも合わせてご記入いただけますと、過去を振り返って処方選択を再検討する際に、客観的な情報となり参考になります。

より良い診療のために、ご協力をお願い申し上げます。

基礎研究部紹介

基礎研究部 室長補佐

永井隆之



皆様は東洋医学総合研究所と言いますと、漢方鍼灸治療センターでの診療が思い浮かぶと思います。しかし、直接皆様の目に入らないかも知れませんが、東洋医学総合研究所は大学の附属研究所ですので、診療だけでなく研究と教育も行っています。基礎研究部は東洋医学総合研究所における研究と教育の一翼を担って

いる部門です。

それでは、基礎研究部は東洋医学総合研究所の何処にあるのでしょうか。実は、基礎研究部は社団法人北里研究所と学校法人北里学園の法人統合の組織改組の過程において、北里大学の附属研究所である北里生命科学研究所の新設に伴い、北里生命科学研究所に和漢薬物学研究室として移

管されました（北里生命科学研究所には昨年、ノーベル生理学・医学賞を受賞された大村博士も所属されています）。しかし、和漢薬物学研究室は東洋医学総合研究所と密接に連携し、同研究室の教員は基礎研究部の職員を兼任しています。また、北里生命科学研究所の目指す感染症および関連疾患の制御を目的として、漢方薬および植物エキスやこれらに由来する含有成分の有用性の解析を行い、漢方薬の育薬研究と産業利用可能な医薬や有用素材・成分の開発研究を目指しています。

度利用を目指し、その薬効機序の解析や新しい概念の創薬への利用に関する研究を行っています。それでは、当研究室の研究の一端をご紹介します。成分の解明 ストレスや加齢などでの粘膜免疫系の機能低下、並びに気道炎症や糖尿病などの慢性炎症性疾患に対する漢方薬の有効性の証明と作用機序について、種々の動物モデルを用い、特に粘膜免疫機構を介した機序と薬効成分について解析しています。

漢方薬は種々の難治性疾患や生活習慣病、高齢者の生体機能の低下に基づく感染症や付随する疾患など、西洋医学での治療が困難な疾患に対しその臨床効果が期待されています。当研究室（基礎研究部）では、このような背景と臨床知見をもとに、漢方薬や和漢薬、植物素材の感染症および重要疾病の予防・治療への高度利用を目指し、その薬効機序の解析や新しい概念の創薬への利用に関する研究を行っています。それでは、当研究室の研究の一端をご紹介します。成分の解明 ストレスや加齢などでの粘膜免疫系の機能低下、並びに気道炎症や糖尿病などの慢性炎症性疾患に対する漢方薬の有効性の証明と作用機序について、種々の動物モデルを用い、特に粘膜免疫機構を介した機序と薬効成分について解析しています。



基礎研究部セミナー風景

うつ症状に有効な漢方薬の作用機序や診断マーカーについて、うつ様モデル動物や臨床検体を用いてプロテオーム解析などの手法により検討を行なうとともに、抗うつ様活性成分について解析しています。基礎研究の成果が診療に役立つようになるには長い時間が掛かりますが、当研究室（基礎研究部）では基礎研究の立場から東洋医学の叡知を探索し、漢方医療を通じて笑顔あふれる社会が実現することを旨として、日々研究を行っています。また、教育の面では大学院感染制御科学府の大学院生や卒業研究生の研究指導を行っています。

このたび韓国の釜山（ブサン）にある東義大学校韓医学部で開催された韓医診断研究国際学術セミナーに招待され、講演を行いました。東義大学校は学生2万人を擁する私立のマンモス校で、北里大学同様、伝統医学（日本の漢方医学に該当するもので、韓医学と呼ばれます）の研究・教育部門を有するよしみから、両校の間では今年2月に学術交流や人材交流に関する覚え書きが締結されました。今回の講演招請はそれを受けてのものであり、両校の交流の出发点という位置づけでした。さて以前にテレビで放映され、高視聴率を得た韓国ドラマ「宮廷女官チャングムの誓い」をご覧になった方には多少なじみがあるかもしれませんが、皆様の中

韓国東義大学校訪問記

東洋医学総合研究所 所長 小田口 浩

で韓医学について詳しくご存じの方は少ないと思われます。我々が当センターで診療に利用している漢方医学と同様、韓医学も源流は古代中国医学にあります。古代中国医学は韓国を経て6〜7世紀頃に日本に入り、その後日本の文化・風土の影響を受けて修飾され、結果的に漢方医学という、日本人に有用な医学としての地位を確立しました。これの韓国版が韓医学ということになり、漢方医学と韓医学は古代中国医学を親に持つ兄弟同士の関係です。兄弟とはいってもそれぞれに特徴があり、韓医学は薬による治療よりも鍼灸治療に重きを置く点、また四象医学（ししやういがく）という、体質診断の医学が主要な要素となっている点が漢方医学との大きな

相違になります。

セミナーは4月8日午後
に東義大学のキャンパス
で開催され、私は現在国内
5大学と連携して実施して
いる漢方診療標準化プロ
ジェクトの内容を紹介する
講演を行いました。同プロ
ジェクトは、医師が患者様
を診察する際の微妙なテク
ニックや知恵など、言葉に
しづらい暗黙知を、情報通
信技術（ICT）を利用し
て明らかにしようというも
ので、同様の試みを行って
いる韓医学の先生方にたく
さんの質問をしていただき
ました。特に現在開発中
である腹診センサー（現在医
師の触感を駆使して行われ
ているお腹の診察をある程
度簡単に行えるようにする
機器）についてはかなり興
味を持っていただきました
。このような診断機器に
ついては韓国が日本をリー
ドしている面もあり、相互
に意見交換しながら両国の
人々の役に立つシステムを
作れるよう協力していき
たいと考えております。

セミナー当日の午前中

は、東義大学の病院を見
学させていただきました。
9階建ての病院の8、9階
が韓医学の病棟、2階から
6階が西洋医学の病棟と
なっております。韓国で
は、韓医学の医療を実践す
る韓医師と、西洋医学の医
療を実践する医師の免許制
度はそれぞれ独立してお
り、両者の間には一種の縄
張り争いがあると聞いてお
りましたが、東儀大学の
病院では両者が連携協力
し、患者中心の医療が実践
されている点が印象的でし
た。



東義大学校病院の生薬展示棚前にて。右から二番目が筆者。左から二番目はLee 東義大学校韓医学部長。

日本薬学会第136年会

「次世代の薬学への羅針盤」

「新しい薬学への出帆」

臨床研究部 室長 日向 須美子



日本薬学会第136年会
が、2016年3月26日
29日にパシフィコ横浜で開
催されました。組織委員長
の北里大学薬学部長 伊藤
智夫 先生のもと、薬学部
が中心となって準備を進
め、盛やかな年会となりました。
本年会は、国際創薬シ
ンポジウムが拡充し、薬局
での外国人対応も議論する
など国際化を強く意識した
ものでした。また、日本薬
学会会員で初めてノーベル
生理学・医学賞を受賞した
大村智北里大学特別荣誉教
授の記念講演が行われ、メ
インホールの他に4つの中
継会場が用意されました
が、それでも入場できない
ほど多くの方が聴講に訪れ
ました。当研究所の基礎研
究部からは、「漢方方劑
「香蘇散」煎剤の抗うつ様
作用に関連する脳内タンパ

ク質の探索と作用機序の解
析」、「培養 microglia の炎
症反応に対する non-IB
の抑制効果」が発表されま
した。臨床研究部・研究生
の高橋君（薬学研究科大学
院修士課程）が発表した
「Formalin 誘発疼痛に対す
る麻黄エキス、エフェドリ
ンアルカロイド除去麻黄エ
キス（EAE）及びエフェ
ドリンの鎮痛効果」は、学
生優秀発表賞（ポスター発
表の部）を受賞しました。
さらに、小田口所長、小林
教授（薬剤部門長）、著者
は、シンポジウム「エフェ
ドリンアルカロイド除去麻
黄エキスの創薬に向けた取
り組み〜天然物医薬品の開
発におけるブレイクスルー
を目指して〜」において、
「EAE」の薬理作用と臨床応
用へ向けた取り組み、「麻
黄及びエフェドリンアルカ

ロイド除去麻黄エキス
（EAE）の鎮痛作用と副作
用」、及び「エフェドリン
アルカロイド除去マオウエ
キス（EAE）の臨床的有
用性を検証する臨床研究」
に関する講演を行いました。
麻黄は多くの漢方薬に
含まれる有効性の高い生薬
ですが、エフェドリンアル
カロイドによる副作用か
ら、適応制限があります。
私たちは、副作用の少な
い麻黄エキス（EAE）を
医薬品化し、将来、多くの
患者様が安心・安全に治療
を受けられるようになるこ
とを目標に研究を行って
います。しかし、日本には天
然物医薬品のための承認申
請ガイドラインがないた
め、現状ではEAEを医薬
品化する道筋がありません。
本シンポジウムでは、
天然物医薬品の承認申請の
ために必要な要件につい
て、活発な議論が行われま
した。後日、本シンポジウ
ムの記事が、薬事日報第1
1708号の一面に掲載さ
れました。

第117回日本医史学会

学術大会に参加して

医史学研究所 部長 星野卓之



先日話題となったオバマ大統領訪問の1週間前、5月21日（土）22日（日）に広島県広島市で日本医史学会学術大会が開催されました。大統領は原爆投下以前と以後で世界が変わったとスピーチしましたが、広島は日本漢方と医史学にとっても、その活躍の前後で斯界の状況が一変するような偉大な先人を生んだ地です。その先人とは、江戸時代に漢方の大変革を成し遂げた吉益東洞と、戦前に医史学研究を確立し当学会の設立にも関わった富士川游であり、今回様々な特別講演で両者が取り上げられました。

脱する過程と、東洞が打ち立てた独自の医説が解説されました。合わせてその流れに対応する儒学（古文辞学派）の系譜や、実際に東洞と親交のあった儒学者（山縣周南とその門人である瀧鶴台）が紹介されました。瀧鶴台は東洞より七歳年下の俊秀の儒者で、かつて医者としても早くから古医方も行い、山脇東洋『蔵志』や吉益東洞『医断』に序を寄せています。また『建珠録』附録には東洞との往復書簡が収録され、ここで東洞は瀧鶴台へ「足下の如きは知音と謂うべし」と賛辞を送っています。

当研究所からは、「鍼灸マッサージに対する健康保険適用の沿革」（野澤隆幸）、「東方治療研究所について」（周防一平）、「山崎宗運の『骨度折量尺』（加畑聡子）、「療治経験筆記」・『玄仙漫筆』の研究」（星野卓之）、「福井崇蘭館とその蔵書」（小曾戸洋）などの発表がありました。今後も偉大な先人に倣って、漢方の臨床・教育に更なる深化をもたらすような研究を進めていきたいと考えています。

今号は、漢方薬や民間薬、染め物など、多岐に渡り使用されているキハダについてお話しします。キハダはミカン科の植物で、キハダの名前は、樹皮を剥くと内皮が鮮やかな黄色を呈していることから名付けられたと言われています。キハダの鮮やかな黄色は、含有成分のベルリンによるもので、古くから染め物として利用され、最も古い黄色の染料の一つとされています。かつて、中国の公式文書はキハダで染めた紙が用いられたと言わ



漢方豆知識

キハダ

薬剤部 室生真千子



れており、中国歴代の皇帝が用いた紙もキハダで染めたものが多く、これは皇帝のシンボルであるとともに、ベルリンの持つ防虫作用を利用したためであるとされています。実際、キハダで染色された写経用紙が現在も、奈良の正倉院に残されています。キハダの樹皮の周皮を除いたものは黄柏とよばれ、生薬として用いられています。黄柏は民間薬では、奈良の陀羅尼助、山陰地方の煉熊、また信州地方の「お百草」などに配合されています。いずれも水で煮詰めてエキスとした黄柏を使用し、胃炎・胃弱・食あたりなどの改善に用いられています。陀羅尼助の名前は、黄柏の持つ強い苦みを利用し、高僧が陀羅尼経を弟子に教える際、弟



〈キハダの雌花〉

子に黄柏を口に含ませ、眠気を防いだことから名付けられたという言い伝えがあります。また、1300年ほど前に疫病が大流行した際、この「陀羅尼助」が多くの人を助けたとも言われています。

漢方薬では、アトピーや高血圧の治療に用いられる黄連解毒湯や、夏バテの改善に用いられる清暑益氣湯、めまいや頭痛の治療に用いられる半夏白朮天麻湯など、様々な処方に黄柏が配合されています。さらに、黄柏の熱を取る効果を利用して、打ち身の治療に黄柏を粉末にして、小麦粉で練ったものを、湿布薬として用いることがあります。

このように、キハダは古くから様々な用途で利用されてきた、とても重要な生薬の一つなのです。

ツボの効用 曲池

鍼灸診療部

井田 剛人



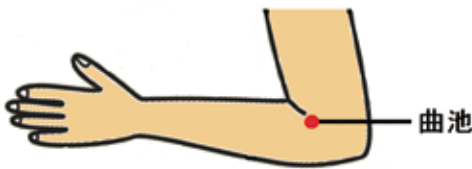
スマホ肘つてご存じですか？正式には上腕骨外側上顆炎といいますが、スマートフォンを長時間使用することで、指の使いすぎや不自然な姿勢での操作により肘に負担がかかり、腕のしびれや、肘の痛みを生じる疾患です。今回はそんな肘のツボについてご紹介致します。

曲池は、「手の陽明大腸経」という経絡上にあるツボで、場所は肘を曲げた時にできる皺の外側端の陥凹部にあります。曲池の下には、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋といった主に肘を伸ばす働きをする筋肉が付着している部位にあるため、こうした筋肉の疲労や痛みが原因で起こる肘の痛みには曲池への刺激が効果的というわけです。

曲池という名前の由来は、大腸経の脈気がこのツボに流れ込む様子が、水が池に流れ込む様子に似ていることや、ツボを取穴する際、その部分が陥没し、その形が浅い池に似ていることとされています。また曲池は合穴といって、十二経絡の経気が集まり、それぞれが合流するところの経穴とされていて、多くは肘関節や膝関節などの周辺にあります。

そのため四肢の関節の疾患にはこれら合穴の使用が欠かせません。

鍼灸の古典書に記述され



ている曲池の主治症をみてみると、『鍼灸甲乙経』では「肩や肘内部が痛んで屈伸しづらい・手が拳がならない・手首が重く引きつるなどの症状には曲池が主治する」とあり、古くから肘の痛みには曲池のツボを使用していたことが伺えます。

その他には、「歯痛、目の充血疼痛、頸の腫脹、口が渴いて水を飲むと発汗するなどの症状は曲池が主治する」とあり、また『千金翼方』には、「尋麻疹には、曲池二穴に灸をすえる。大人になるほど効果があるとされ、また『鍼灸大成』には、「半身不遂、涙が出る、物忘れがひどい、皮膚の乾燥、全身を虫に噛まれたような搔痒感、無月経などの症状を主治する」などの記載があり、曲池は肘や腕の痛み以外にも様々な症状に効果を発揮する万能なツボの一つとされています。

古医書のはなし 貝原益軒と『養生訓』

北里大学客員教授 小曾 戸 洋



『養生訓』や『大和本草』の著者として有名な貝原益軒（1630～1714）は江戸時代前期の儒学者・医学本草学者・教育者です。益軒の名は篤信、字は子誠、通称は助三郎、また九兵衛。号は柔斎、損軒、益軒。寛永7年（1630）11月14日、貝原寛斎の5男として筑前福岡城の藩舎に生まれました。12歳のとき

母を喪い、父に医書を、次に四書五経を学んだといえます。19歳のとき黒田藩2代藩主に仕えることになりましたが、翌年藩主の意に背いて塾居を命ぜられ、2年後には解雇。7年間浪人生活を送りました。医学に造詣を深めたのはこの間のことのようにです。

26歳のとき剃髪、江戸に赴き、幕府儒管の林鶯峯と

面会、儒学への関心を強くしました。まもなく再出仕が叶い、藩費によって京都に7年間遊学。京都では名儒を訪ね、医家・黒川道祐と交際。中村惕斎ほかの朱子学者と交わって朱子学の道を歩むことを決意しました。江戸、京都、長崎へもしばしば往復し、医師の向井元升、本草家の稲生若水、松岡玄達らと交流を持ち、門下に香月牛山を得ました。71歳に至り藩職を辞して隠居。ますます学問に傾注し、著述活動に専念。宝永5年(1708)には『大和本草』合21巻の大作を脱稿しました。

益軒の代表的著書である『養生訓』は、生来病弱であったみずから体験にものとづき、精神と肉体両面の修養を説いた啓蒙的養生書。正徳3年(1713)に完稿となり、同年刊行、全8巻・付録1巻、4冊。その後、何度となく重版・重印本が出されました。広く一般庶民を対象とした変体仮名による和文で書かれ、巻1〜2は総論、次いで飲食・飲茶・煙草・慎色欲・五官・二便・洗浴・慎病・摺医・用薬・養老・育幼・針法・灸法の各項目を立て、要領よくかつ具体的に解説されています。『養生訓』は江戸時代数ある養生書のうちでも群を抜くベストセラーで、今日においても色あせることなく現代人に教訓を与える書です。翻字本や



『養生訓』正徳3年刊(北里大学白金図書館所蔵)

現代日本語による訳本も出版されています。益軒は『養生訓』を身をもって実践し、正徳4年(1714)8月27日、当時としては稀な85歳の長寿を全うし、福岡の金龍寺に葬られました。

メディア紹介

- 『雑誌』
- プレジデント社「PRESIDENT」 「東洋医学の健康診断は何をどうやって診ているの？」平成28年5月16日(月) 石毛達也
- 東方通信社月刊「e-コンパス」増刊5月号「国産生薬栽培の産業化を見据え漢方標準化を推進」小林義典
- 週刊朝日MOOK「正しく付き合う漢方2016」 「大法院の漢方外来(自由診療)の場合」小田口 浩
- 「AS Labo」平成28年No.10「東洋医学の基本を知ろう」伊藤 剛
- 「子供の科学」 「触診をデータ化！名漢方医の技を再現できる手袋」平成28年3月号 東洋医学総合研究所
- 「日本生命会報」 「なるーいん」 「ツボ押しガイド」平成28年3月号 伊藤 剛

東洋医学総合研究所 外来案内
漢方鍼灸治療センター

休診日：日曜日・祝祭日・第4土曜日・年末年始(12/29～1/3)
ホームページ：http://www.kitasato-u.ac.jp/toui-ken/

代表：03-3444-6161
予約電話：03-5791-6169
(月～金) 8:30～17:00
(土曜日) 8:30～12:30
(第4土曜日は除く)
お薬に関するの問い合わせ：
03-5791-6167

漢方科 (平成28年4月～)

	月	火	水	木	金	土
午前	花輪① 星野 堀田 石毛	花輪 鈴木 石毛	花輪② 及川 川鍋 齋藤	花輪 小田口 及川 五野	伊藤(剛) 及川 鈴木 森	小田口 鈴木 森 川鍋 石毛 【小児外来】 堀田
午後	【冷え症 外来】 鈴木 星野 【思春期 女性外来】 森 川鍋	伊藤(剛) 鈴木 堀田 川鍋	星野 石毛 齋藤	小田口 及川 堀田 五野	【冷え症 外来】 伊藤③ 【便秘・下痢 外来】 星野 森 堀田	

鍼灸科

	月	火	水	木	金	土
午前	伊藤(剛) 石原 黒岩 小山	柳澤 石原 小濱 小山	石野 石原 井田 黒岩	伊藤(剛) 石原 小濱 小山	石原 井田 黒岩 小山	伊東 石原 井田 黒岩 小濱
午後	石原 井田 小濱 小山	石原④ 井田 黒岩 伊藤(剛) 小山	石原 小濱 伊藤(剛) 掛川 霜降	井田 黒岩 伊藤(剛) 小山	伊藤⑤(剛) 石原 小濱 伊藤(剛) 小山	

初診受付時間

漢方科	月～金曜日	土曜日(午前のみ)
午前	8:00～10:30	8:00～10:30
午後	12:50～15:00	

鍼灸科	月～金曜日	土曜日(午前のみ)
午前	8:00～10:00	8:00～10:30
午後	12:50～14:30	

再診受付時間

漢方科	月～金曜日	土曜日(午前のみ)
午前	8:00～11:00	8:00～12:00
午後	12:50～15:30	

鍼灸科	月～金曜日	土曜日(午前のみ)
午前	8:00～11:00	8:00～11:30
午後	12:50～15:30	

漢方ドック

月～金(完全予約制)
9:00～15:30

漢方と鍼・第163号
発行日/平成28年7月1日
発行人/小田口 浩
編集/北里大学東洋医学総合研究所
漢方と鍼編集部 代表・星野 卓之
東京都港区白金5-9-1
TEL 03(3444)6161
(制作/榎博愛社)

- ※青字は男性医師または男性鍼灸師
赤字は女性医師または女性鍼灸師
※専門外来では一般の患者様の診療も行っています。
- ①：月曜日午前の花輪医師の外来は、初診のみとなります。
 - ②：水曜日午前の花輪医師の外来は、第2水曜日が休診となります。
 - ③：金曜日午後(第1・3)の伊藤(剛)医師の冷え症外来は初診のみとなります。
 - ④：週によって休診となる場合があります。
 - ⑤：第2・4金曜日のみとなります。